



西尾市 荒井サージタンクに絵を描いたよ

平成19年3月末に西尾市米津にある荒井サージタンクの壁面にとっても楽しい絵が登場しました。
荒井サージタンクを管理している矢作川沿岸土地改良区連合が、いつまでも地域のみなさんに親しみをもってもらえる施設となるように、西尾市立米津小学校4年生のみなさんにデザインをお願いしました。直径約11m、高さ約9mの円柱形をしたサージタンクの壁面に、高さ3.5m、横幅35mの大きさになっています。



「水」をテーマにしたとっても楽しい絵だよ。みんな見に来てね！！

西尾市立米津小学校4年生のみなさんによるデザイン

サージタンクとは？

サージタンクとは、圧力がかかった管水路の途中に設けられる水槽で、下流のバルブを開閉した時などに起こる水路内の急激な水圧の変動を緩和するための施設です。



絵が描かれる前の荒井サージタンク

まだまだあります

新矢作川用水農業水利事業実施地区には、この他にも地域の小学生たちが考えたデザインを描いた施設が多くあります。



西尾市小焼野放流工



ふれあいの道



ふれあいの道



平成19年度工事の予定

新矢作川用水農業水利事業所では、平成19年度に下記の主な工事を予定しています。
近隣の皆様にはご迷惑をお掛けしますが、ご協力をよろしくお願い致します。

	工事名(予定)	場所	主な工事
1	北野幹線水路上流部北野Mサイホン工事	岡崎市	管水路
2	岡崎幹線水路天白サイホンその1工事	岡崎市	管水路
3	北野幹線水路下流部工事	岡崎市	管水路
4	鹿乗幹線水路工事	安城市	管水路
5	六ッ美幹線水路下流部工事	西尾市	管水路
6	細川頭首工管理所耐震補強工事	岡崎市	建築



埋蔵文化財調査を実施しました

北野幹線水路の酒人放流工の工事に先立ち、岡崎市島坂町字三本木において平成19年1月から坂戸遺跡の発掘調査を実施しています。

坂戸遺跡は、矢作川右岸の沖積地に立地し、岡崎市と安城市にまたがり広がっています。昭和47年の水路工事の際に、弥生時代の木製品や、水路などの畦をとめるしがらみ状の杭列が発見されています。

今回の発掘調査では、弥生時代中期の竪穴住居跡をはじめ鎌倉時代の井戸まで、河川の堆積物に何度も覆われながらも各時代にわたり人々が暮らした痕跡がみつけられました。遺物もやわらかい土の中で原形をとどめたものが多く、特に弥生時代と古墳時代の土器が大量に出土しています。

中でも一つの遺構からは、扁平な勾玉と、壺や高坏などの土師器がまとまって出土し古墳時代中期のまつりがおこなわれた土坑であると考えられます。

豊富な地下水に守られて、建物の柱穴に柱材や流木などが残っており、過去の人々の生活についてより多くの情報が今回の発掘調査で掘り出されています。



発掘調査の様子



発見された井戸の跡



大量に出土した食器



講演会「明治用水と安城」を開催しました

平成19年2月22日、明治用水会館で、安城市歴史博物館館長の加藤善亮氏を講師に迎えて明治用水とともに発展を遂げてきた安城市の歴史についてご講演いただきました。

会場には約80人の参加者が集まり「日本デンマーク」と呼ばれ農業先進地として飛躍的な発展を遂げた安城市と明治用水の関わりについて熱心に聞き入っていました。



加藤善亮 安城市歴史博物館館長

加藤館長は、明治用水の親にあたる都築弥厚の家の話からはじまって、明治用水の水量が名古屋市の人口をまかなえる水量であること、昭和に安城市がラジオ普及率の日本一だったということなど、幅広い話を分かりやすく話して下さいました。



現在、農業先進地である安城市が「日本のデンマーク」として発展を遂げるためには、明治用水がなくてはならないものだったのね。



約80人が集まった会場の様子



矢作川用水ものがたり 第7回(連載)

「矢作川用水ものがたり」の第7話目です。今回は幡豆町はづちょうに関係したお話です。

幡豆町

証文岩

長老が救った寛永の大飢饉・水を分け合ったことを記録



1640(寛永17)年は雨が少なく、寛永の大飢饉といわれた年でした。谷村(幡豆町)ではため池の水が枯れ、米が穫れず村人が餓死する恐れが生じました。領主松平右衛門の命を受けた石塚久左衛門は、「何かよい方法はないか」と山道を歩いていると、ふと水の流れる音を耳にしました。流れをたどっていくと、水のあるため池がありました。久左衛門はさっそく池の持ち主である上畑村(幡豆町)に、「どうか谷村に水を分けてください」と頼みました。しかし、村人は「自分たちには何の得もないのにどうして分けなければならないのか」と言って猛反対しました。

しかし、それを聞いていた長老の善右衛門は、「自分たちのことしか考えないのはよくない。互いに助け合うことが大切」と村人を説得しました。両方の村が力を合わせて水路を作ったおかげで餓死寸前の谷村は救われました。感謝した村人はこのことを岩に彫って忘れないようにしました。これが上畑池と谷池の中ほどに残る証文岩です。



この文を書くに当たり、「郷土資料 はず」(幡豆町編)を参考にしました。



しんやはぎ

第12号 2007.5

「しんやはぎ」は、矢作川の沿岸で国営かんがい排水事業を実施している、農林水産省東海農政局 新矢作川用水農業水利事業所の広報誌です。



西尾市 荒井サージタンク

しんやはぎがわようすいのうぎょうすいりじぎょう 新矢作川用水農業水利事業

平成6年から延長57.4kmの水路と細川頭首工・鹿乗川頭首工・羽布ダムの修理や改修を行っています。この水路は矢作川沿岸の7,073haの田畑に水を供給しています。



六ツ美幹線水路(改修前)

六ツ美幹線水路(改修中)



発行元：農林水産省 東海農政局 新矢作川用水農業水利事業所

〒446-0065 安城市大東町 22-16

電話番号 0566-74-7327(代表) Fax.0566-71-3265

ホームページ：<http://www.tokai.maff.go.jp/nougyou/seibi/kensetu/sinyahagi/index.htm>

今月の記事



安城市歴史博物館館長の加藤善亮先生が、「明治用水と安城」と題して講演してくださいました。

荒井サージタンクに絵を描いたよ
平成19年度工事の予定
埋蔵文化財調査を実施しました
講演会「明治用水と安城」を開催しました
矢作川用水ものがたり第7回(連載)

平成18年度の工事が完成したよ!!
平成19年度に予定している工事を紹介します。

